

# 西祖谷地区のまちづくりプラン

## 第三次西祖谷地区地域福祉活動計画

### ●西祖谷地区データ

(令和元年9月末現在)

区 分	人 数	区 分	世帯・割合
人 口	1,034 人	世 帯 数	576 世帯
14歳以下	56 人	一人暮らしの高齢者世帯数	94 世帯
15～64歳	445 人	高齢者のみ世帯数	40 世帯
65歳以上	533 人	高 齢 化 率	51.5 %
75歳以上	327 人	後期高齢化率(75歳以上)	31.6 %
社会資源			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校(1校)</li> <li>・認定こども園(1箇所)</li> <li>・消防団(6箇所)</li> <li>・介護施設(2箇所)</li> <li>・小学校(2校)</li> <li>・公民館・分館(7箇所)</li> <li>・駐在所(1箇所)</li> <li>・介護サービス事業所(3箇所)</li> <li>・幼稚園(1箇所)</li> <li>・多目的集会所(3箇所)</li> <li>・診療所(1箇所)</li> </ul>			
地域のイベント			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・西祖谷夏祭り</li> <li>・古宮神社(加良宇多姫伝説)</li> <li>・ふすま絵からくり</li> <li>・一字だんじり太鼓</li> <li>・ほたるまつり</li> <li>・八幡獅子太鼓</li> <li>・神代踊り など</li> </ul>			

### ●住民アンケート・座談会を受けて

西祖谷地区の小学校では、吾橋小、櫛生小とも全校児童が10名前後で、在籍児童がいない学年もあります。中学校では、「希望する部活動ができない」「多くの同級生の中で中学校生活を送りたい」等の理由で、約半数が他地区の中学校への入学・通学を選択されている等、住民票上の数字以上に少子化・過疎化が強く実感されます。このままでは、近い将来の小中学校の統廃合のおそれもあり、地域内の大きな資源である小学校・中学校を守るための取組みの検討が求められます。

各地域においては、要援助者割合が増加している中、転出等による空き家が増加し、現住家屋の減少により、結果として要援助者住宅が点在化することとなっています。また、援助者(支え手)の減少もあり、援助者の一人ひとりの負担が増加する傾向にあります。

三好市、特に西祖谷地区では、地勢的に地滑りや土砂災害の懸念があり、現在までに多くの土砂災害が発生しています。市では、各避難所を整備し、ハザードマップ等により、広報されていますが、多くの指定緊急避難所が土砂災害警戒区域内に設置されており、土砂災害に関しては、半数以上が2階以上に避難すること等の条件付きの避難所となっています。座談会やアンケートでは、「避難所自体が危険」「避難所までが遠いので、避難所まで行けない」「高齢者は、避難所へ行きたくない」等の意見も多く聞かれており、避難所を利用しない(自宅で待機する)ことを前提とした、災害を最小限にとどめる方策の検討の必要があります。

また、座談会の中で自主防災組織の見直しの必要性についても話題に上り、今後、三好市危機管理課や西祖谷支所との連携の強化が求められます。

社協(西祖谷支所)と各地区との情報交換・連携に関し、吾橋・西岡・櫛生・善徳地区においては、各地区住協を通じて、有瀬地区・小祖谷地区においては、自治会長や民生委員を通じて行っています。

多くの懸案事項もありますが、アンケート結果の中から、地域活動への参加状況が高いことや隣近所の助け合い・支え合いができていたことが分かりました。小規模な地域ならではの住民同士の強い結びつきや民生委員や自治会長と地域住民とのお互いの顔が見える関係性のほか、婦人会をはじめとする各種団体も活発に活動しています。

また、ユネスコ無形文化遺産への提案候補として、神代踊が全国37の風流踊の一つとして選定されました。マスコミ等に取り上げられる機会が増えたことで、多くの観光客が西祖谷を訪問しています。これらは、明るい話題として、地域の活性化につながるものと思われます。

西祖谷地区地域福祉活動計画では第二次地域福祉活動計画での取り組みの成果や課題を踏まえて、数年先を見据えた各地区住協、自治会、関係機関と連携・協働した活動の実施により地域の力のさらなる強化に向けた計画を策定しました。

## 重点事業 1

## 「地域の絆づくり」の推進

### ● 地域での課題

- ・行事等への参加者が固定化している
- ・世代間交流や後継者(活動の支え手)の育成が必要である
- ・移動手段の確保が難しく1カ所に集まることが困難になっている
- ・小学校 中学校と地域との連携をさらに強化したい

### ● 課題解決に向けての目標

- ・地区住協や地区住協活動を知ってもらい、参加してもらおうきっかけを作ろう
- ・隣近所での交流の場(ミニサロン)の充実や移動手段の検討を進めよう
- ・学校行事への参加や学校との交流を深めよう

### ● 取組計画

取組項目	内容
広報活動の充実	地区住協連合会・各地区住協の活動を知ってもらい、参加や協力が得やすい環境づくりを進める。(広報誌配布等)
世代間交流の推進	学校行事や夏祭り等、多世代が集まる機会へ積極的に参加し、世代間交流を図る。
集える場の増加・拡充	歩いて行ける範囲に集える場(ミニサロン)を設置していく。
移動手段の検討	行事参加者に対する組織的な送迎方法や効率的なタクシー等の利用方法を検討する。
学校へのサポート	学校行事への積極的な参加、児童生徒との交流や学校ボランティアとしての登録を行う。

## 重点事業 2

## 「援助が必要な方に対する支援」の推進

- 地域での課題
  - ・援助が必要な人が多く、支援が行き届きにくくなってきた
  - ・移動や買い物が困難な人が多くなってきた
- 課題解決に向けての目標
  - ・情報を共有し、要援助者を見落とさないようにしよう
  - ・移動や買い物支援の方法を検討しよう
- 取組計画

取組項目	内 容
要援助者の情報共有	要援助者、見守りが必要な人のマップを作製し、情報を共有する。 マップの定期的な見直しを行う。
見守り活動の効率化	各種団体・機関等と連携し、見守り活動の効率化を図る。 広報誌を直接手渡しする等、各種資料等配布時や各種募金依頼時等に合わせて、安否確認を行う。
移動手段・買い物支援の検討	持続可能な移動手段の確保・買い物支援を検討する。

## 重点事業 3

## 「安全で安心豊かなまちづくり」の推進

- 地域での課題
  - ・災害への備えが十分とは言えない
  - ・情報提供を充実させたい
- 課題解決に向けての目標
  - ・防災訓練・避難訓練等を通じて、地域住民への啓発を行おう
  - ・各家庭・個人での災害への備えを充実させよう
  - ・防災・防犯・消費者生活についての情報を発信しよう
- 取組計画

取組項目	内 容
防災訓練・避難訓練・研修会等の開催	合同防災訓練等を通じ、住民への防災・減災意識の向上を図る。
近所の一時避難所・避難経路の確認	指定避難所までの距離が遠い世帯も多く、近くで安全な建物等を確認するとともにそこまでの経路を確認する。

取組項目	内容
各家庭の備えの確認	土砂災害発生のおそれがあり、避難所への避難が困難で、自宅で待機する場合の留意事項を確認する。非常持ち出し袋や非常食の備蓄への啓発を図る。
各家庭への情報提供・発信	防災・防犯等に関する研修会や広報誌を通じて、各家庭への情報提供を行い、意識の向上を図る。
要援助者の不安解消	心配事がある際に誰に連絡を取るのかを事前に調整・確認をする。 広報等で、適切な情報発信をする。